

第 59 回宇宙理学委員会 議事録

日時：平成 29（2017）年 12 月 11 日（月）11:00～14:20

（昼休憩 12:30～13:20）

場所：宇宙科学研究所研究管理棟 1 階入札管理室(1134)

出席者：

理学委員：山田（委員長）、渡邊（副委員長）、篠原（幹事）、清水（幹事）、山崎（幹事）、井口、一本、今村、上野、金田、河合（TV 参加）、倉本（TV 参加）、郷田、齋藤、塩谷、田代、中川、羽澄、山岸、吉田、渡部、永田

（欠席：高橋、田中、橋本、三好）

宇宙研：満田プログラムディレクタ

説明者：太陽系科学研究系（地球外物質研究グループ） 安部正真

事務局：科学推進部青柳計画マネージャ、和木、石崎

1. 前回議事録確認

資料 1-1, 資料 1-2, 回覧済みだが、指摘があれば本会議中にお問い合わせ→コメント無し、承認。

2. CALET 科学評価小委員会報告（報告）

山崎幹事により、資料 2 に基づいて説明がなされた。

3. 全天 X 線監視装置(MAXI)の後期運用再延長審査・科学評価小委員会報告（審議）

田代委員長より、資料 3 に基づいて説明がなされた。2018 年 1～2 月に有人部門で行われる審査に報告することが説明された。延長運用での success criteria の設定について、評価小委員会からフィードバックを行なうことが提案された。また他衛星との連携による即応体制の構築について、開発状況の確認が行われた。

4. あかつき終了審査・科学分科会設置について(進捗報告)

清水幹事より、資料 4 に基づいて説明がなされた。理学委員会から、宇宙研の部門審査に資料のような委員を推薦し、塩谷氏にはミッション分科会委員長を務めていただいている。事前審査の準備はスタートしている。

5. キュレーション専門委員会(報告)

安部氏より、資料 5-1、資料 5-2 に基づいて説明がなされた。はやぶさ 2 への対応を協議している。

6. WG 審査

1. 磁気リコネクション・粒子加速 WG(設立)(報告)

山田委員長より資料 6-1-1,6-1-2 に基づいて説明がなされた。WG には審査結果に

ついて通知済みである。戦略的開発経費に応募できないか、という問い合わせがあったが、今年度の追加募集の予定はないことを連絡した。

PRAXyS-IXPE WG(名称変更・継続)審査結果(審議)

山田委員長より、これまでの経緯について説明があった。PRAXyS は前々回の小規模計画公募で推薦され、NASA の down selection を待っていたが、今回 WG の変更・継続によって科学的意義が充分あると認められれば宇宙研への再度推薦することを可能とするものと考えている。宇宙研においては、小規模計画として審査を行い、2018 年度からの実施の可否が判断される。そのため WG 設立委員会に審査を依頼した。宇宙研としてのステータスについて、満田 PD に、所は理学委員会から推薦があれば実行にかかる費用も含め審査を始めることができることを確認した。WG からの提案および審査の公平性と、国際協力に対応する迅速性には注意すべきとのコメントもあったが、今回の PRAXyS-IXPE については WG の変更は科学的意義を失わず、合理的なものであると認め、宇宙研に小規模課題としての実施の検討を推薦することとなった。

2. 3 年を経過した WG の審査

中川 WG 設立審査委員長より、資料 6-3 に基づいて説明がなされた。WF-MAXI, LDM とも延長を希望するということであり、今後審査を行なう。ただし、当初の

枠組みからの変更の可能性が高く、その点は明らかにしてほしいと依頼している。

戦略的経費への応募を可能とするために、12月末までに申請、審査を行なう。

7. ミッションライフサイクルに応じた支援(審議)

山田委員長より、午後の理工学委員会で行なうべき議論と整理しつつ、資料7の後半に重点を置いて説明がなされた。(資料の最終ページに不備があったので差し替えた。)

その後 pre Phase A1a での理学委員会の役割を再確認するから議論を始めた。年度ごとの開発経費の審査・評価とミッションの成熟を確認するタイミングをどのようにすると、無駄がないか、アドバイザリの役割と権限をどうとらえるか、Phase A1a 相当としての成熟度をサイエンス評価と、CML のようなチェック方式をどうバランスするか、などを中心に議論が行われた。

8. その他

藤本委員が、研究総主幹となったために、理学委員を外れることになる。幹事団で委員候補を選定し、次回委員会に諮ることとなった。

9. 宇宙理学メンバ登録申請について(Agenda 順番変更)

資料10が投影され、新規登録2名が承認された。

10.平成 29 年度戦略的開発研究費の報告書提出と平成 30 年度提案募集について

篠原幹事より資料 8-1, 8-2 に基づき説明がなされた。

戦略的キー技術について、来年度定義したいということが山田委員長より説明され、

キー技術の抽出方法について、20 年委員会での議論も含め議論された。

また、戦略経費の提案が公募型小型提案と引き続き行われるため、審査を通じて明ら

かになる課題への取り組み、所からの予算処置への切替えなど、柔軟な対応が行なえ

るように提案時に識別ができるよう公募文書を修正・発出する。

11.平成 29 年度搭載機器基礎開発研究費の報告書提出と平成 30 年度提案募集について

清水幹事より、資料 9 に基づき説明がなされた。

基礎開発研究費の役割を、どのように他の外部資金と差別化するか、それを公募文書・

審査プロセスに反映するか、という点について議論がなされた。萌芽的なものを推奨

するということを重視して、文書を修正し、公募を発出する。

資料 8-4 のように審査委員を選任する。

12.宇宙理学委員会のミッションと議論のあり方についての討議

渡邊副委員長より、資料 11-1 の紹介がなされた。継続的議論が必要な課題ではあるが、

積極的な議論をお願いしたいということで、時間の許す範囲で議論が行われた。

特にコミュニティーと理学委員会の関係、ミッションを推薦するという立場の意味など基盤となる議論を今後深めたいということになった。理学委員会を活性化するために、今後は議題提案を受けたいという提案があった。

以上